

論文番号	4 (第10回研究会 2012.11.24 於青山学院大学)
タイトル	日本語辞書・和英辞書における主体的表現「やはり／やっぱり」の記述：日本語小説の英訳と関連させて
著者名(所属)	加納 麻衣子 (ノートルダム清心女子大学大学院 院生)
連絡先 Eメール	dahelitsalan@yahoo.co.jp
<p>論文内容</p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>小説の英訳で誤訳や無視されることの多い日本語表現の一つに「やはり／やっぱり」がある。この意味や用法については一定の考察がなされてきた(加藤 1999)が、依然として非母語話者には難解とされる。そこで、言語主体の心的なものへの着目から主体的表現(時枝 1953)に属すものとして提唱された「含過程構造」説(氏家 1989)に注目した。含過程構造とは一定の時間にわたる話し手の心的過程を一語句で表現する特質を持ち、当該語は‘As I expected, ~’等と英訳される。では、どのようにしてこの主体的表現は獲得されたのか。歴史的形成過程を知り、異言語(英語)での相当語句の有無や対応表現について考え、当該表現の特性を解明することにしたい。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>近現代の日本語辞書における当該語の意味記述の調査検討(加納 2012)後に資料を加えた結果に基づき、意味の拡大・発展について考察する。当該語の持つ数種の意味内容の内、特に、言語主体の心的なものを示す意が加わって来た時、その記述に見られる執筆者の見解という側面に注目する。次いで、和英辞書における記述を区分し、日本語辞書との関連も併せて検討、さらに、その内容が日本語小説の英訳に与えた影響について考察する。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>近現代の日本語辞書の当該語の記述内容を検討し、全3期に区分した。その内、現在までの意味区分の出揃う1978年(第2期の終わり)までを中心にその意味記述の変化・発展を見た。客体的事態を表現するA型「静止・不動」に始まり、「依然・不変」の意を示すB型(B1「前と同じ」B2「他と同じ」)、次いで、C型「伝聞・予想との一致」への分化が見られた。B型の中ではB1からB2へと意味内容が拡大している。A型は「今或る状態を動かさずに」という概念内容を示すが、C型では話者の心的なものが表現されている。C型は1954年に出現し、次いでそれが1963年に継承され、言い換えの語句や例文の記載が始まった。</p> <p>近現代の和英辞書における記述を歴史的に概観した。1867年刊の辞書で置き換え語として示された<i>still, yet, also, too, likewise</i>を踏襲するものが明治期には多く、その後もB型の置き換え語を中心とした記載が長期にわたる。C型の言い換え表現は1967年刊の辞書で出現し、1973、1977年刊のもので引き継がれ、1983年刊の辞書で音調を含む(氏家 2011)詳細で精確な記述がなされ定着した。この和英辞書の記述史は日本語小説の英訳に関わり、英訳において無視される例、誤訳される例が指摘できる。</p> <p>(結論)</p> <p>近現代の日本語辞書の記述から、当該表現が客体的事態の表現(A型)に始まり、話者の認識を表わす主体的表現(C型)へと分化する様を検討した。和英辞書ではB型のみが長く記載された。C型は日本語辞書では1950年代に言い換え語句が記載され始めたが、和英辞書では1960年代になってからであり、詳細で精確な記述は1980年代に始まる。以上のことが日本語小説の英訳における問題点に大きく関わり、英訳において無視される例、誤訳される例等が指摘できる。日本語の主体的表現の成立と辞書類への記載の歴史から、それが非母語話者に理解されにくく、独自性を持つ所以が明確になった。</p>	
<p>参考文献</p> <p>(1)氏家洋子 1989「日本語の含過程構造とそれを育んだ状況共有社会」『山形大学紀要(人文科学)』11・4。(—1996『言語文化学の視点』おうふう 所収) (2)—2011「日英語対照から見る「信号語」・裏声：主体的表現とその生成過程」杉藤美代子編『音声文法』くろしお出版 181-198. (3)加藤薫 1999「やはり論の問題点—その対立する論点の整理と展望—」カッケンブッシュ寛子[ほか]編『日本語研究と日本語教育』明治書院 165-183. (4)加納麻衣子 2012「主体的表現「やはり／やっぱり」の成立：近現代の日本語辞書の意味記述検討を通して」『清心語文』14. 1-12. (5)時枝誠記 1953「言語における主体的なもの」『金田一博士古希記念 言語民族論叢』三省堂</p>	